

報告

家庭医療後期研修施設の研修プログラムに関する 現状把握調査

日本家庭医療学会 若手家庭医部会後期研修プロジェクトグループ

西岡洋右*1 川尻英子*2 喜瀬守人*3 斉藤裕之*4 中村明澄*5 森 敬良*6 矢部千鶴*2 前野哲博*5

*1 亀田メディカルセンター 家庭医診療科

*2 三重大学医学部附属病院 総合診療部

*3 川崎市立多摩病院 総合診療科

*4 東京医科大学付属病院 総合診療科

*5 筑波大学附属病院 総合診療科

*6 出雲市民病院／出雲家庭医療学センター

要旨

〈背景〉

昨今家庭医療への関心が高まり、将来家庭医を志す学生・研修医が増加しているが、施設や研修の情報不足により、家庭医を志す学生・研修医が、研修施設の選択に苦慮することも多い。日本では、家庭医療後期研修プログラム（以下、研修プログラム）を持つ施設の数把握されておらず、標準化されたガイドラインも存在しないため、研修内容については各施設や個人に委ねられている。

〈目的〉

わが国における家庭医療後期研修施設とその研修プログラムの現状を把握する。

〈方法〉

一次調査：日本家庭医療学会員全員（学生会員を除く）に文書を送付し、各所属施設の家庭医療後期研修プログラムの有無もしくは提供予定の有無、所属施設以外の調査該当施設を推薦して頂いた。

二次調査：一次調査で自他薦された施設の研修責任者に調査票を送付し、実際の研修プログラム存在の有無、プログラム内容等について回答を得

た。

〈結果〉

一次調査および二次調査を通じて、47施設より回答を得た。そのうち13施設に研修プログラムが存在し、19施設が作成予定であった。

調査時点で研修プログラムが存在すると回答した13施設については、外来研修13施設（100%）、入院研修12施設（92%）、高齢者のケア研修13施設（100%）、終末期のケア研修12施設（92%）などは、ほとんどの施設で行われていたが、研修期間2-4年（平均2.9年）、小児のケア研修10施設（77%）、妊産婦・婦人のケア研修5施設（38%）、プログラム自己評価実施7施設（58%）など、項目によって施設ごとにばらつきがみられた。

〈考察〉

家庭医療後期研修プログラムを提供している施設の施設数、プログラム内容を把握することができた。しかし、現時点での研修プログラムは統一されたものではなく、早急に家庭医療後期研修プログラムが標準化され、優れた家庭医を数多く養成する体制が整備される必要がある。

報告

【背景】

医療をめぐる環境が大きく変化する中で、家庭医療に対する需要はこれからますます増加していくものと考えられる。また、学生・研修医の間でも家庭医療への関心が高まり、2005年に行われた第17回学生・研修医のための家庭医療学夏期セミナーでは参加者が200名近くに達するなど、将来家庭医を志す学生・研修医が増加している¹⁾。しかし、施設や研修の情報不足により、家庭医を志す学生・研修医が、研修施設の選択に苦慮することも多い。現在、日本では家庭医療の体系的な研修プログラムを持つ施設の数把握されておらず、研修プログラム作成の指標となるガイドラインが存在しないため、研修内容については各施設や個人に委ねられている。そこで我々は、まず我が国における家庭医療研修の現状を把握する必要があると考え、本調査を行った。

【目的】

我が国の家庭医療後期研修施設とその研修プログラムの現状を把握する。

【対象・方法】

《対象》わが国で家庭医療後期研修プログラムを提供している、もしくは今後提供する意思のある施設。

《調査期間》平成17年7月～平成17年12月

《方法》

平成17年7月、日本家庭医療学会会員全員（学生会員を除く）に「家庭医療後期研修プログラムに関する現状把握調査のお願い（一次調査）」を郵送した。調査項目として、所属する施設において、家庭医療後期研修プログラムが提供されている、もしくは提供される予定があるか否か、また所属する施設でなくても本調査に該当すると思われる施設があれば推薦して頂いた。調査の説明は文書にて行い、回答の返信をもって同意とした。得られた回答を集計・入力し、調査に該当すると

考えられる施設について表を作成した。

次に、一次調査で作成した表をもとに、自薦もしくは他薦された施設の研修責任者宛に、調査説明書、同意書とともに、「家庭医療後期研修プログラムに関する現状把握調査票（二次調査）」（以下、調査票）を郵送した。調査票は、米国家家庭医療学会研修ガイドライン²⁾を参考に、共同研究者で吟味し、研修プログラムの概要、指導医の状況、研修内容、他科研修、評価の項目について作成した（資料参照）。調査内容について文書で説明し、文書にて同意を得た。後期研修プログラム責任者もしくはその代理者が調査票に回答し、同意書とともに返信して頂いた。調査へ回答後、回答内容について不明な点があった場合に追加調査を行う可能性を文書にて説明した。得られた回答の情報公開可否について、情報公開の際に再度確認する旨を説明し、同意を得た。

本調査は、日本家庭医療学会倫理委員会の承認を得た上で、調査を行った。

【結果】

一次調査では90件の回答があり（回収率9%）、重複した施設を除いた70施設（自薦46施設、他薦24施設）の二次調査対象施設を抽出した。これらの施設に対して二次調査を行い、47施設より回答を得た。

二次調査に回答のあった47施設の内訳を図1に示す。47施設のうち、13施設に研修プログラムが

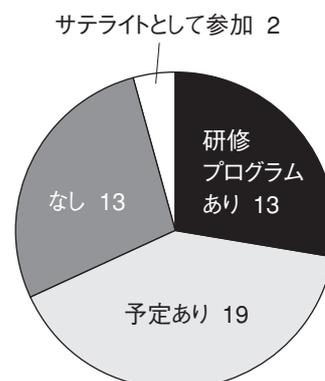


図1. 二次調査47施設の内訳

報告

存在し、19施設が作成予定、2施設はサテライトクリニックとして協力しているとの結果であった。

さらに、二次調査において研修プログラムが存在すると回答のあった13施設の調査結果について、集計分析を行った。

研修施設としては、単一基幹病院のみで研修を提供しているのは1施設（7%）で、他施設（病院・診療所）と連携して研修を提供しているのは12施設（93%）であった。研修期間は3年間と設定している施設が最も多く（7施設）、最長は4年間（2施設）、研修期間が設定されていない施設もあった（図2）。研修医採用人数については0～10人と施設間のばらつきが大きく、家庭医療専任の指導医がいる施設は11施設（84%）であった。

家庭医療のコアコンポーネントとして考えられる項目について、後期研修中に一貫して学ぶことができるか、その具体的な方法について自由記載により回答を得た（表1）。患者中心の医療、家族志向型ケアについてはほぼ全ての施設（12施設）で学ぶことができると回答があったのに対し、地

域包括プライマリケアについては9施設（69%）であった。患者中心の医療、家族志向型ケアに関する教育は、日々の診療とフィードバック、レクチャーやカンファレンスなどを通じて行われているとの回答が多かった。地域包括プライマリケアに関しては、教育方法として、在宅医療、診療所研修、地域の保健・福祉部門との連携など、実践の場そのものが挙げられていた。

研修中に行われる系統教育として、ライフサイクルの項目については、高齢者や終末期のケアは12～13施設（92～100%）で行われ、小児のケアは10施設（77%）、妊産婦や婦人のケアは5施設（38%）のみで行われていた（図3）。臓器別ケアの項目では、心血管系、神経疾患などの内科分野についての教育は多くの施設で行われていたが、眼、耳鼻科的ケアなどは、5-6割程度であった（図4）。健康管理と予防の項目では、患者教育や予防医学の教育は、ほぼ全ての施設で行われていたが、リハビリテーションやスポーツ医学については5割程度であった（図5）。

外来研修、入院研修は、ほとんどの施設で行われており、在宅研修についても11施設（85%）で行われていた（図6）。

他科ローテーション研修は11施設で行われており、他科研修中に研修医が家庭医療のアイデンティティーを保つことのできるための工夫として、継続外来を持つ（ハーフデイバック）、家庭医のカンファレンス・勉強会などへの参加、レジデントミーティング、家庭医療指導医との連絡など、様々な方法が挙げられていた。

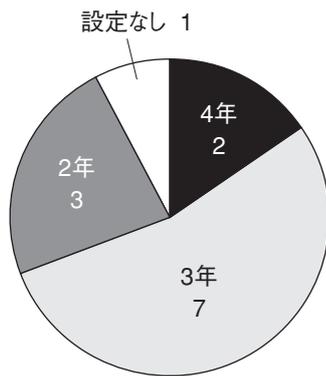


図2. 研修期間（年）

項目	実施施設数	教育方法
患者中心の医療	12	日々の診療とフィードバック（プリセプティング、ビデオレビューなど）、 レクチャー、カンファレンス
家族志向型ケア	12	
地域包括プライマリケア	9	在宅医療、診療所研修、地域健康教室、学校医、地域の保健・福祉部門との連携など

表1. コアコンポーネントの教育

報告

家庭医療研修における後期研修医への評価、フィードバックは11施設（85%）で行われていたが、研修プログラム自体の評価については、指導医により行われているのは7施設（58%）、研修医からは4施設（33%）のみであった。（図7）

のある施設の施設数、プログラム内容の概要について、把握することができた。

研修プログラム提供予定の施設が19施設あった。これは、調査を行った平成17年度は初期研修必修化2年目であり、必修化導入年度の初期研修医が翌年度より後期研修医となるため、家庭医志望の研修医のニーズに合わせ、研修プログラムを立ち上げる動きが多くみられたと推測される。

研修プログラムにおける研修期間や研修医採用人

【考察】

今回の調査により、現時点で家庭医療後期研修プログラムを提供しているもしくは提供する予定

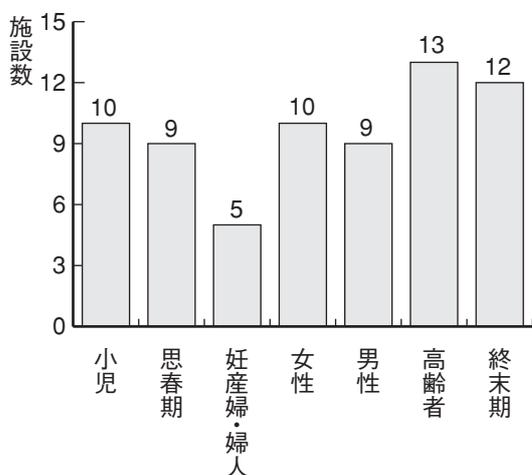


図3. 系統教育“ライフサイクルにおけるプライマリケア”

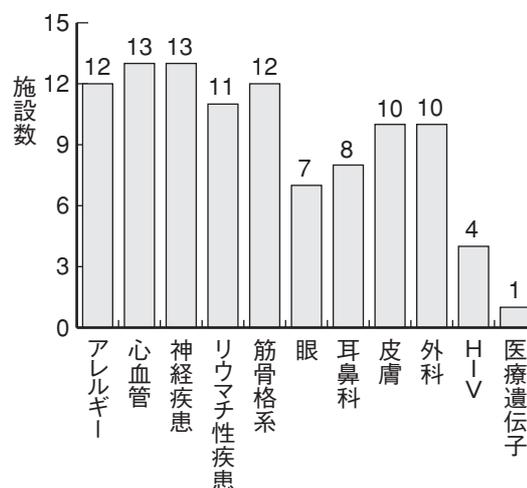


図4. 系統教育“臓器別にみた患者のケア”

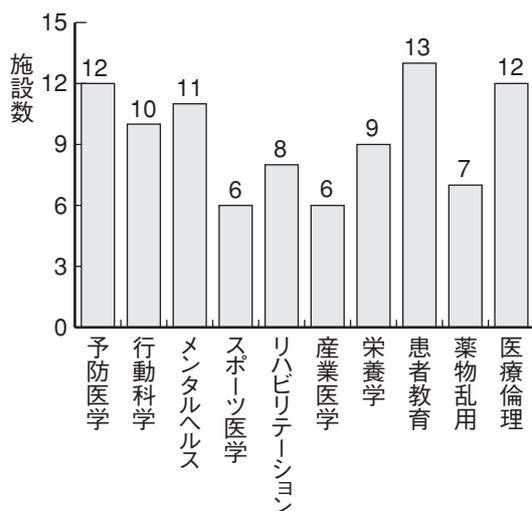


図5. 系統教育“健康管理と予防”



図6. 外来・入院・在宅研修

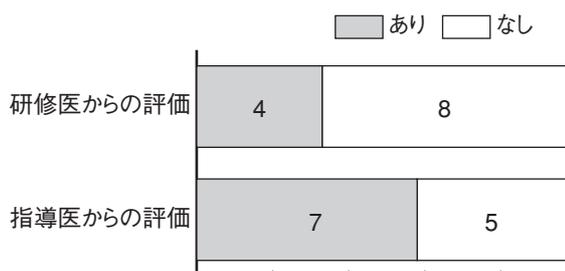


図7. 研修プログラムの評価

報告

数については、施設間でかなりのばらつきを認め、協力施設を含めた研修施設のキャパシティー、確保できる指導医の数、研修プログラムの熟成度などにより、影響されているものと思われる。プログラム内容については、高齢者のケア、在宅医療研修などを系統教育として行っている施設が多かった。日本では、近年、少子高齢化が急速に進行しており、高齢者医療および介護の問題が大きくなっている。そういった現場の医療ニーズに応えるべく、研修プログラムにおいても積極的に教育されているものと考えられる。一方で、妊産婦・婦人のケア、眼、耳鼻科的ケアなどの系統教育を行っている施設は少なかった。その理由として、日本では国民および医師の間で、家庭医がこれらの分野の医療を行うことへの理解やニーズが未だ少ないことが挙げられる。また、研修プログラムは存在しているものの、研修プログラム自体の評価がされていない施設が少なくないことも明らかとなった。各施設で独自に作成された研修プログラムであるため、評価方法も確立されていないことが予想される。しかし、研修プログラムの質を保つためには、内部だけでなく外部からの評価も重要であると考えられる。

現時点で存在する研修プログラムは、それぞれの地域や研修医のニーズにあわせて、各施設で試行錯誤されたものであり、施設ごとにオリジナリティーを持った研修プログラムであると考えられる。しかし、研修領域にばらつきが大きく、質が保証されているとは言えない。今後、日本の家庭医療および研修プログラムをより発展させていくためには、標準化された研修プログラムの作成、および研修プログラムを評価するシステムの構築が必要である。

本調査参加施設の中で、ホームページ上での情報公開に同意して頂いた29施設については、平成18年2月末に若手家庭医部会ホームページ上に、施設名・プログラムの有無（予定を含む）・プログラム名・研修責任者もしくは代表者・連絡先・

プログラム紹介を掲載した。ホームページに掲載することで、医学生や初期研修医の進路決定の参考になることを期待した。

また、本調査と平行して日本家庭医療学会の認定後期研修プログラム構築のためのワークショップが開催され、プログラム認定は着実に実現に近づいている。平成18年2月12日には認定後期研修プログラム（バージョン1.0）が発表され、仮認定を行っている。平成18年9月30日現在、仮認定を受けた全ての施設は本調査に参加した施設である。

本調査の限界として、一次調査の母集団を日本家庭医療学会会員（学生会員を除く）としたため、調査対象となった施設以外にも、家庭医療後期研修を提供する意思のある施設、もしくは関心のある施設が存在する可能性があり、その全てを把握することはできなかった。

今後、家庭医療後期研修プログラムについて、学会外にもプロモーションすることにより、国民や多くの医師の間で家庭医療の認識が広がることを期待する。

謝辞

大変お忙しい中、本調査の追加調査と情報公開にご協力頂いた研修プログラム責任者（代表者）の皆様、および本調査にご回答頂いた全ての日本家庭医療学会会員の皆様に深く感謝を申し上げます。

参考文献

1. 日本家庭医療学会会報 第54号（2005年11月1日発行）
2. Recommended Curriculum Guidelines for Family Medicine Residents. AAFP
プライマリケア 何を学ぶべきか
～米国家家庭医療学会ガイドラインから～
プリメド社

〈資料〉

家庭医療後期研修施設の研修プログラムに関する現状把握調査票

I 家庭医療後期研修の概要

A. 研修プログラムの概要

1. あなたの施設には、家庭医療後期研修プログラムがありますか。 ある ない
(ない と答えた方は、A-2 より回答を続けてください。)
 - 1-a. そのプログラムは、文書化されていますか。 されている されていない
(可能でしたら、プログラム概要について、アンケート返信時に添付して頂けると幸いです。)
 - 1-b. プログラムがある場合、設定されている研修期間はどのくらいですか。
 設定されている:()年 設定されていない
2. 家庭医療後期研修をどのような施設で提供されていますか。
 基幹病院単一 基幹病院＋サテライトクリニック 基幹病院＋他病院
 その他()

B. 家庭医療後期研修医の採用

1. あなたの施設での、最近3年間の家庭医療後期研修医としての平均採用人数は何人ですか。
()人/年
2. 採用にあたり、独自の基準を用いた試験を行っていますか。ある場合、その内容を教えて下さい。
 はい:() いいえ
3. 最近3年間で何人が研修修了しましたか。
平成16年度()人、平成15年度()人、平成14年度()人

II 指導医

A. 研修責任者(プログラムディレクター)

1. 家庭医療後期研修の全体を統括する専任の責任者がいますか。 はい いいえ

B. 指導医

1. 上記責任者以外に後期研修医の指導に当たる常勤の家庭医療後期研修指導医が何人いますか。
()人

Ⅲ 家庭医療後期研修内容

A. 家庭医療後期研修項目

1. 以下の項目を家庭医療後期研修中に一貫して学ぶことができますか。学ぶ事ができる項目をチェックし、その具体的な方法について、教えて下さい。

患者中心の医療

(方法: _____)

家族志向型のケア

(方法: _____)

地域包括プライマリ・ケア

(方法: _____)

2. 以下の項目に関して系統的な教育が行われていますか。行なわれている項目をチェックして下さい。

ここでいう系統的な教育とは、講義だけでなく、日常診療の中で主治医として問題に対応できるようになるための教育とします。

■ ライフサイクルにおけるプライマリ・ケア

- 小児の健康
- 思春期の健康
- 妊産婦と婦人科の医療
- 女性の健康
- 男性の健康
- 高齢者の健康
- 終末期のケア

■ 臓器別にみた患者のケア

- アレルギーと免疫疾患のケア
- 心血管系疾患のケア
- 神経疾患のケア
- リウマチ性疾患のケア
- 筋骨格系の疾患のケア
- 眼の疾患のケア
- 耳鼻科疾患のケア
- 皮膚疾患のケア
- 外科患者へのケア
- HIV 感染症/AIDS
- 医療遺伝子学

■ 健康管理と予防

- 予防医学
- 行動科学
- メンタルヘルス
- スポーツ医学
- リハビリテーション
- 産業医学
- 栄養学
- 患者教育
- 薬物乱用への対策
- 医療倫理

■ 救急・災害医療

- 救急医療
- 重症患者のケア
- 災害医療

■ 診療所のマネイジメント

- 診療所の業務管理
- リスク・マネイジメント
- EBM の活用
- 診療所での検査
- 医療情報の管理

報告

B. 外来研修

1. 外来研修を行っていますか。 行っている 行っていない
2. 外来で、後期研修医自らが主治医となって患者を診療していますか。 している していない
3. 指導医は後期研修医の診療をどのように指導していますか。(複数回答可)

- 診察室で研修医と一緒に診療
- カルテチェック 口頭でのチェック
- ビデオレビュー
- その他()

外来研修について、研修年次ごとに段階的に指導方法を変更するなど、貴施設で工夫されていることがございましたら、具体的にお書きください。

()

4. 後期研修医が診療する時間はどのくらいですか(半日の診療を1コマとします.)。
- 週平均()コマ x ()ヶ月

C. 入院患者の診療

1. あなたの施設では、家庭医療後期研修としての入院研修が行なわれていますか。
(他病院等におけるオープンシステムを含みます。) 入院研修がある 入院研修はない
2. 後期研修医自らが主治医となって患者を診療していますか。 している していない

D. 在宅患者の診療

1. 在宅医療を研修できますか。 できる できない
2. 後期研修医自らが主治医となって患者を診療していますか。 している していない

E. カンファレンス、講義など

1. 後期研修医全員を対象とした、教育のためのカンファレンス・講義はどのように行われていますか。
(複数回答可。その他の場合、その方法を教えてください。)

- 教育回診 症例検討会 抄読会
- 指導医によるレクチャー 勉強会
- 外部講師による講演会
- その他()
- 行われていない

F. 研修医の学術的活動

1. 後期研修医がリサーチやその他の研究活動を行なう機会が与えられていますか。
 与えられている 与えられていない
2. 後期研修医が院外の学術的活動(学会、ワークショップなど)へ参加する機会が与えられていますか。
 与えられている 与えられていない

報告

IV 他科研修

1. 家庭医療研修以外に、他科のローテーション研修を行っていますか。
 行なっている 行なっていない
2. 研修開始前に、他の研修科との間で、家庭医療において必要な研修内容についての交渉を行っていますか。
 行っている 行っていない
3. 他科研修期間、後期研修医が家庭医としてのアイデンティティーを保つ為の工夫をしていますか。している場合はその方法を教えてください。
 している:() していない
4. 研修期間中、後期研修医が自由に選択出来る研修期間がどの程度ありますか。
 ある:()ヶ月 ない

V 評価

A. 後期研修医の評価

1. 研修によって達成されるべき知識、技能、その他の能力に関する研修目標を示した文書が存在していますか。
 存在する 存在しない
2. 研修目標についてのフィードバックは、行われていますか。
 行なわれている 行なわれていない

B. 指導医の評価

1. 指導医の評価は行われていますか。あれば具体的な方法について教えてください。
 ある:どのように() ない
2. 後期研修医からの指導医に対する評価は行われていますか。
 行なわれている 行なわれていない

C. 研修プログラムの評価

1. 指導医による研修プログラムの評価は定期的に行われていますか。
 行なわれている 行なわれていない
2. 後期研修医による研修プログラムの評価は定期的に行われていますか。
 行なわれている 行なわれていない